

※1 区分は次のとおり。

A	意見を受けて素案を修正したもの
B	素案と意見の趣旨が同様と考えられるもの
C	素案を修正していないが、今後の施策の進め方等の参考とするもの
D	素案に取り入れなかったもの
E	素案の内容についての質問等

(20210120)

番号	区分	意見	意見の概要	意見に対する道の考え方	区分（※1）
1	パブリックコメント	<p>【在宅】 第12節 在宅医療の提供体制 1「現状」、4「数値目標等」、7「医療機関等の具体的名称」 在宅医療を担う在宅療養支援診療所、支援病院の数がほとんど増えていません。在宅医療の体制は、広域、多雪の北海道にあっては、基本、1次医療圏ごとに必要だと思います。 そのためには、在宅医療を支える訪問看護ステーション、受け入れ病床、在宅での生活を支える介護保険をはじめとして在宅介護制度の充実が必要です。計画に盛り込んでください。</p>	第1次医療圏ごとに在宅医療を支える訪問看護ステーション、受け入れ病床、在宅での生活を支える介護保険をはじめとして在宅介護制度の充実が必要であることから。その内容を計画に盛り込むべき。	人口減少や高齢化が進行する中、急性期医療から在宅医療までバランスの取れた体制を目指す地域医療構想の実現や医療と介護が連携した地域包括ケアシステムの構築と整合性を持ちながら在宅医療の体制整備を図るため、保健所が中心となって多職種連携などの取組を二次医療圏ごとに進めるとともに、日常の療養支援に関する機能等については、在宅医療介護連携推進事業を実施している市町村単位での構築を目指す。	C
2	北海道保険者協議会	<p>・要介護認定者、認知症患者などの増加が見込まれる中、在宅療養支援診療所及び在宅療養支援病院を、各医療圏に等しく確保していくことには限界があり、描いているビジョンに辿り着くことが困難な状況が伺えます。 北海道の広域性・積雪寒冷などの特性ならびに今回の感染症拡大リスクなどを考えると、「ICTを活用した遠隔在宅医療の推進」については、他都府県よりも一歩進んだご検討をいただければと考えます。 体制整備には、多職種間の連携体制構築の場（研修会など）に、民間企業（通信関連）を加えるなど、当事者である医師・薬剤師・看護師・介護支援専門員・市町村職員が、具体的な支援体制をイメージできるような積極的な活用方法を検討したうえで、地域におけるモデル実施など、北海道の地域性を活かした在宅医療のスタイルを構築できるよう進めていただきたい。</p> <p>・協会けんぽも医療保険者として、在宅医療に重要な役割を果たす「かかりつけ医の重要性」、また災害時などにおける避難支援として「お薬手帳の普及」「マイナンバーによる薬剤情報連携」などの広報・啓発活動に今後も積極的に取り組んでいく所存です。</p>	<p>要介護認定者、認知症患者などの増加が見込まれる中、在宅療養支援診療所及び在宅療養支援病院を、各医療圏に等しく確保していくことには限界であるため、北海道の広域性・積雪寒冷などの特性ならびに今回の感染症拡大リスクなどを考えると、「ICTを活用した遠隔在宅医療の推進」について、他都府県よりも一歩進んだご検討をすべき。 体制整備については、多職種間の連携体制構築の場（研修会など）に、民間企業（通信関連）を加えるなど、当事者である医師・薬剤師・看護師・介護支援専門員・市町村職員が、具体的な支援体制をイメージできるような積極的な活用方法を検討したうえで、地域におけるモデル実施など、北海道の地域性を活かした在宅医療のスタイルを構築できるよう進めていくべき。</p>	広域分散で医療資源の偏在が著しい本道において、限られた医療資源を効果的に活用し、良質かつ適切な医療を提供するためには、地域の実情を踏まえた、ICTを活用した遠隔医療システムの導入を促進することが重要であり、引き続き、関係団体等の意見を伺いながら地域医療介護総合確保基金を活用した効果的な支援のあり方を検討し、地域の具体的な取組を支援してまいる。	C
3	地域の協議の場（後志圏域：後志老人福祉施設協議会）	<p>（第3章 第12節 3 必要な医療機能） 「患者が望む場所での看取り可能な体制づくり」について、まだ全国平均にも及ばない点を改善したいと考える。 看取りに関する理解について、道民への理解、普及啓発はもちろん、主治医の理解も必要不可欠だと考える。（当圏でも主治医の考え方により、傾向が変わることが顕著）。</p>	「患者が望む場所での看取り可能な体制づくり」について、まだ全国平均にも及ばない点を改善することから、看取りに関する理解について、道民への理解、普及啓発はもちろん、主治医の理解も必要不可欠だと考える。	「看取り」や「人生会議」に対する住民や医療従事者の理解を深めるため、21医療圏で道立保健所等が事務局となっている多職種連携協議会や在宅医療推進支援センターにおいてセミナーや研修会を開催しており、引き続きこうした取組を通じて「看取り」や「人生会議」の普及啓発に努めてまいる。	C

番号	区分	意見	意見の概要	意見に対する道の考え方	区分（※１）
4	地域の協議 の場（東胆 振圏域：苫 小牧市）	在宅医療の提供体制については、地域における連携体制を構築する上で、保健所のコーディネート役としての役割を果たすべく、関係者による定期的な打合せは必須と考える。現在、少しずつ動き始めているので、コロナ禍においても、動かしていき、議論を進めていきたい。	在宅医療の提供体制については、地域における連携体制を構築する上で、保健所のコーディネート役としての役割を果たすべく、関係者による定期的な打合せは必須であることから、コロナ禍においても、議論を進めていくべき。	21医療圏で道立保健所等が事務局となって多職種連携協議会を設置し、地域における在宅医療の連携体制構築に取り組んでおり、引き続き、新型コロナウイルスの感染状況を踏まえながら、地域における取組を進めまいる。	C